

第2章 名詞と形容詞 1

3 第一変化名詞

1. **Puella** cantat. 少女は歌う。
2. **Scientia** est **potentia**. 知識は力である。
3. **Ō patria**. おお祖国よ！
4. **sapientia** **rēgīnae** 女王の知恵
5. **causa** **glōriae** 栄光の原因
6. **Sapientiam** **rēgīnae** laudō. 私は女王の知恵を賞賛する。
7. **Rosam** **puellae** dō. 私は少女にバラを与える。
8. **Puella** **rosās** amat. 少女はバラを愛す。
9. **Poēta** cum **puellā** cantat. 詩人は少女と一緒に歌う。
10. **Puella** mensam **rosīs** ornat. 少女は机をバラで飾る。
11. **Lūnam** videō. 月が見える。 / 私は月を見る。

4 第二変化名詞

1. **Vergilī**. ウェルギリウスよ。
2. **Asinus** in **tēgulīs**. Petr.63 屋根の上のろば。
3. **Alcīnō** **pōma** dare Ov.Pont.4.2.10 アルキーンヌスに果実を与えること

5 第一・第二変化形容詞

1. **dominus** **bonus** よき主人 (は)
2. **domina** **bona** よき女主人 (は)
3. **dōnum** **bonum** よき贈り物 (は)
4. **Dominus** **bonus** cantat, **domina** **bona** audit.
よい主人が歌い、よい女主人が聞く。
5. **Fīlius** **bonī** **dominī** cantat. よい主人の息子が歌う
6. **Dominum** **bonum** amant. 彼らはよい主人を愛す。
7. **Dominam** **bonam** amant. 彼らはよい女主人を愛す。
8. **Pāx** **Rōmāna** ローマの平和

9. Amat **bonus** ōtia Daphnis. Verg.Ecl.5.61

立派なダプニスは閑暇を愛する。

10. Vērī amīcī **rārī**. 真実の友はまれ（である）。

11. **Bonī** amant **bonum**. 善人は善を愛す。

12. Ab **honestō** virum **bonum** nihil dēterret. Sen.Ep.76.18

いかなるものも立派な人物を正直な行いから遠ざけない。

13. **Meus** fīlius aeger est. 私の息子は病気です。

14. **Tua** fīlia pulchra est. あなたの娘は美しい。

15. Sapientiam magistrī **vestrī** laudō.

私はあなたがたの先生の知恵を賞賛する。

16. **Suam** fīliam amat. 彼は自分の（主語自身の）娘を愛する。

17. **Ējus** fīliam amat. 彼は彼の（主語以外の）娘を愛する。

18. **Suam** fīliam amant. 彼らは自分たちの（主語自身の）娘を愛する。

19. **Eōrum** fīliam amant. 彼らは彼らの（主語以外の）娘を愛する。

20. Avārus ipse miseriae causa est **suae**. Syr.14

貪欲な者は自らが自分の不幸の原因である。

21. Quid C.Caesarem in **sua** fāta pariter ac pūblica inmittit?

Sen.Ep.94.65

何がガイウス・カエサルを彼自身並びに国家の破滅へと追いやるのか。

第3章 動詞1

6 直説法・能動態・現在

1. Tacent, satis laudant. Ter.Eun.476

彼らは黙っている。十分賞賛している。

2. Ōtia dant vitia. 暇は悪徳を与える。

3. Dum spīrō, spērō. 私は息をする限り、希望を持つ。

4. Nec habeō, nec careō, nec cūrō.

私は持たない、不足を感じない、気をもまない。

5. Fāma volat. 噂は飛ぶ。 Verg.Aen.8.554

6. Cum docent, discunt. 彼らは教える時、学んでいる。

7 不規則動詞 **sum** の直説法・能動態・現在

1. Homō **sum**. 私は人間である。 Ter.Heaut.77
2. Deus **erat** verbum. 言葉は神であった。
3. Amīcītia sāl vītae. 友情は人生の塩。
4. Vōx populī vōx deī. 人民の声は神の声。
5. Cōgitō ergō **sum**. 私は考える、ゆえに、私はある。

8 命令法・能動態

1. **Ōrā** et **labōrā**. 祈れ、働け。（ベネディクト会のモットー）
2. Domine, **dīrige** nōs. 主よ、我らを導き給え。（ロンドンの標語）
3. Aut **disce** aut **discēde**. 学べ、さもなくば、去れ。
4. Salvē. こんにちは（健康であれ）。
5. Salvēte. みなさんこんにちは。
6. Valē. さようなら（元気であれ）。
7. Valēte. みなさんさようなら。
8. **Nōlī** mē tangere. （あなたは）私に触れるな。
9. **Nōlīte** jūdicāre. （あなたたちは）裁くな。
10. Impius nē **audētō** plācāre dōnīs īram deōrum. Cic.Leg.2.22
11. Nē frontī **crēde**. 見かけを信じるな。

第4章 名詞と形容詞 2

9 第三変化名詞

1. Adversa **virtūte** repellō. 私は勇気によって逆境をはね返す。
2. Aurea **mediocritās**. 黄金の中庸。 Hor.Carm.2.10.5
3. **Cīvis** Rōmānus **sum**. 私はローマ市民である。
4. **Honōs** habet **onus**. 名誉は重荷を持つ。
5. **Līs** **lītem** parit. 争いは争いを生む。

6. **Māter artium necessitās.** 必要は技術の母。
7. **Mors certa, hōra incerta.** 死は確実、時は不確実。
8. **Occāsiōnem cognosce.** 好機を知れ。
9. **Mens agitat mōlem.** 精神は大塊を動かす。 Verg.Aen.6.727

1 0 第四変化名詞

1. **Amāre juvenī fructus est, crīmen senī.** Syr.29
恋することは若者にとっては果実であり、老人にとっては罪である。
2. **Aut insānit homō aut versūs facit.** Hor.Sat.2.7.117
この男は狂っているか、詩を作っているか、どっちかだ。
3. **Vāde certō gradū.** 確かな足取りで進み給え。 Sen.Ep.37.4
4. **Imāgō est animī vultus.** Cic.Or.60
顔は心を表す形である。
5. **Ūsus magister est optimus.** 経験は最良の教師である。

1 1 第五変化名詞

1. **Diēs dolōrem minuit.** 日は悲しみを和らげる。
2. **Fidēs fidem facit.** 信頼は信頼を作る。
3. **Fallācēs sunt rērum speciēs.** 事物の外観は偽りに満ちている。
4. **Spem successus alit.** 成功は希望を育てる。
5. **Per variōs cāsūs, per tot discrīmina rērum tendimus in Latium.**
Verg.Aen.1.204-205

1 2 第三変化形容詞

1. **Sapiens habet dīvitiās in sē.** 賢者は自らの中に富を持つ。
2. **Ars longa, vīta brevis.** Sen.Brev.1.1
技術は長く、人生は短い。
3. **Īra furor brevis est.** Hor.Ep.1.2.62
怒りは短い狂気である。

4. **Fortēs** fortūna adjuvat.

運命は強い者を助ける。

5. Nunc **omnia** rīdent. Verg.Ecl.7.55

今すべてがほほえんでいる。

6. **Omnēs** ūna manet nox. Hor.Carm.1.28.15

一つの夜（死）がすべての人を待ち受ける。

第5章 動詞2

1 3 直説法・能動態・未完了過去

1. Stellae **micābant**. 星々が輝いていた。

2. Rosam **vidēbāmus**. 私たちはバラを見ていた。

3. In principiō **erat** verbum. はじめに言葉があった。

4. **Stābat** māter dolōrōsa.

悲しみに満ちた母がたたずんでいた。 / 母は悲しげに立っていた。

5. **Tenēbat** nōn modō auctoritātem, sed etiam imperium in suōs.

彼は、家族に対して権威のみならず支配権を保っていた。 Cic.Sen.11

1 4 直説法・能動態・未来

1. Vēritās **līberābit** vōs. 真理は汝らを自由にするだろう。

2. Ratiō mē **dūcet**, nōn fortūna. 理性が私を導くだろう、運命ではなく。

3. Tristis **eris** sī sōlus **eris**. Ov.Rem.583

一人でいるとあなたは悲しくなるだろう。

4. **Dabit** deus hīs quoque fīnem. Verg.Aen.1.199

神はこれら（の不幸）にも終わりを与えるだろう。

5. In mediō tūtissimus **ībis**. Ov.Met.2.137

あなたは真ん中を（通れば）最も安全に行けるでしょう。

1 5 不規則動詞

1. **Abeunt** studia in mōrēs. Ov.Her.15.83

熱意は習慣に変わる。

2. **Bis dās sī citō dās.** あなたがもし早く与えるなら二度与えることになる。

3. **Errāre mālō cum Platōne.** Cic.Tusc.1.39

私はプラトーンとともに間違うことをむしろ望む。

4. **Fortūna opēs auferre potest, nōn animum.** Sen.Med.176

運命は財産を奪うことはできても、精神を奪うことはできない。

5. **Omnia fert aetās, animum quoque.** Verg.Ecl.9.51

歳月はすべてを運び去る、心までも。

6. **Jam redit et Virgō, redeunt Sāturnia regna.** Verg.Ecl.4.6

今やウィルゴー（乙女）も戻り、サートウルヌスの王国も戻る。

7. **Abī ad formīcam, ō piger.**

蟻の所へ去れ、おお怠惰な者よ。

8. **Perfer, obdūrā.** Catul.8.11

耐えよ、我慢せよ。

9. **Ī, sequere Ītaliā ventīs, pete regna per undās.** Verg.Aen.4.381

行け、風によってイタリアを目指せ、海を越えて王国を求めよ。

10. **Tū nē cēde malīs, sed contrā audentior itō.** Verg.Aen.6.95

汝困難に屈することなく、いっそう勇敢に立ち向かえ。

第6章 代名詞 1

1.6 人称代名詞、指示代名詞（1）、再帰代名詞

1. **Sī tū valēs, bene est; ego valeō.** あなたが元気なら結構です。私は元気です。

2. **Ego tū sum, tū es ego.** 私はあなた、あなたは私。 Pl.St.5.4.49

3. **Hodiē mihi, crās tibi.** 今日は私に、明日はあなたに。

4. **Memor vestrī sum.** 私はあなた方のことを覚えている。

5. **Paucī nostrum linguam Latīnam discunt.**

私たちのうちの少数の者がラテン語を学ぶ。

6. **amor nostrī** 私たちへの愛

7. amor **nostrum** 私たちの抱く愛

8. Amīcī **nostrī** linguam Latīnam discunt.

私たちの友人はラテン語を学んでいる。

9. Dōnā **nōbīs** pācem. 我々に平和を与えよ。

10. **Tibi** grātiās agō. 私はあなたに感謝を行う（「ありがとう」の意）。

11. Est **mihi** liber. 私は本を持っている。

12. Crēdō **tibi**. 私はあなたを信じる。

13. Amō **tē**. 私はあなたを愛する。

14. Domine, dīrige **nōs**. 主よ、われらを導きたまえ。

15. Scīmus **tē** esse honōrātum.

我々はあなたが尊敬すべき人だということを知っている。

16. Nec **tēcum** possum vīvere, nec sine **tē**. Mart.12.46.2

おまえとともに生きられない。おまえなしには生きられない。

17. Librum habeō. **Eum** tibi dabō.

私は一冊の本を持つ。君にそれをあげよう。

18. Cynthia formōsa est. **Eam** amō.

キュンティアは美しい。私は彼女を愛している。

19. Lūna lūcet. **Eam** videō.

月が輝いている。私はそれを見ている。

20. **Is** est bonus magister. 彼はよい先生だ。

21. Amāsne **eam**? あなたは彼女を愛しているか。

22. **Eīs** librōs dabō. 私は彼らに本を与えるだろう。

23. Laudō **ējus** fīlium. 私は彼（彼女）の息子をほめる。

24. Habēsne **eōs** librōs? あなたはそれらの本を持っているか。

25. ob **eam** rem そのことのために

26. **Mē** laudō. 私は自分自身をほめる。

27. **Tē** laudās. あなたはあなた自身をほめる。

28. **Nōbīs** crēdimus. 我々は自分自身を信じる。

29. Multī nostrum **sē** amant. 我々の多くは自分を愛する。

30. **Sapiens sibi** imperat. 賢者は自らに命令する。

1 7 指示代名詞（2）、強意代名詞、疑問代名詞

1. **Hunc** librum tibi dōnō. 私はこの本をあなたに贈る。
2. **Haec** rosa mihi placet. このバラが私のお気に入りだ。
3. **Hic** est meus magister. これは私の先生です。
4. **Haec** mea filia est. これが私の娘だ。
5. **Hī** deōs adorābant. これらの人々は神々を崇拝していた。
6. **Hoc** ante omnia fac. 何よりも先にこのことを行え。
7. **Dabit deus hīs quoque fīnem.** Verg.Aen.1.199
神はこれらにも終わりを与えるだろう。
8. **Forsan et haec ōlim meminisse juvābit.** Verg.Aen.1.203
おそらくこれらのこともいつか思い出して喜べるだろう。
9. **Nōn erit ista amīcitia, sed mercātūra,** Cic.N.D.1.122
(君のいう) それは友情ではなく取引に過ぎないものになるだろう。
10. **iste** liber (君のそばの) その本
11. **ista** cōgitātiō そのような(君の) 考え
12. **istud** verbum そのような(君の) 言葉
13. **Dē istīs rēbus exspectō tuās litterās.** Cic.Att.2.5.2
私は君の近況を伝える手紙を期待している。
14. **ille** liber あの本(は)
15. **Tūne ille** Aenēās? Verg.Aen.1.617
あなたがあのアエネーアースなのか?
16. **Amor omnibus idem.** Verg.Geo.3.244
愛はすべてにとって同じである。
17. **Eadem** prōbāmus, **eadem** reprehendimus. Sen.Vit.1.5
われわれは同じことを是認し、同じことを糾弾する。
18. **Ipse** dīxit. 彼自身がいった。 Cic.N.D.1.10
19. **Cognosce tē ipsum.** 汝自らを知れ。

20. **Multī multa sapiunt, et sē ipsōs nesciunt.**

多くの者は多くのことを知っているが、自分自身については何も知らない。

21. **Quis dīcit?** 誰がいうのか？

22. **Quī homō dīcit?** どの人がいうのか？

23. **Quid expectās?** 君は何を期待するのか？

24. **Quod auxilium expectās?** 君はいかなる援助を期待するのか？

25. **Quis separābit?** 誰が（我々を）引き離すだろうか？

26. **Quid Rōmae faciam?** 私はローマで何をなせばよいか？ Juv.3.41

27. **Ignōrantī quem portum petat, nullus ventus est.** Sen.Ep.71.3

どの港を目指すかを知らない人に順風は吹かない。

28. **Quibus nunc sollicitor rēbus!** Ter.Ad.36

今私はなんという不安に苦しめられていることか。

18 代名詞的形容詞

1. **alter idem** 第二の自分 Cic.Amic.80

2. **Miserum est arbitriō alterius vīvere.** Syr.412

他人の思惑にしたがって生きることは惨めである。

3. **Alter alterius auxiliō eget.**

一方は他方の助けを必要とする。

4. **Ignōtī nulla cupīdō.** Ov.A.A.3.397

知らないものにはいかなる欲望も（生じ）ない。

5. **Nōn fert ullum ictum inlaesa fēlicitās.** Sen.Prov.2.6

損なわれたことのない幸福はいかなる打撃にも耐えられない。

6. **Uter ex hīs tibi sapiens vidētur?** Sen.Ep.90.14

これら（二人）のどちらが君には賢者に見えるのか。

7. **Flōs ūnus nōn facit hortum.** 一輪の花が庭を作るのではない。

8. **Ūnus prō omnibus, omnēs prō ūnō.**

一人はみんなのために、みんなは一人のために。

9. **Frūmentī cōpiam legiōnāriī nōnnullam habēbant.** Caes.B.C.1.78

軍団兵はいくらかの穀物の蓄えを持っていた。

10. ad **utrumque** cāsum parātus Verg.Aen.2.61-62

どちらの状況に対しても覚悟のできた

11. **Utrumque** enim vitium est, et omnibus crēdere et **nullī**.

Sen.Ep.3.4

というのも、誰であれ信用することも、誰をも信用しないことも、どちらも間違っているからだ。

12. **Nēmō** in amōre videt. 恋する者は誰も（ものが）見えない。

13. **Industriae nihil** impossibile. 勤勉にとって不可能なものは何もない。

14. Chrṽsippus āit sapientem **nullā rē** egēre. Sen.Ep.9.14

クリューシッパスはいう、賢者はいかなるものも欠いていない、と。

15. **Dē nihilō nihil**. 無から何も生じない。

19 不定代名詞

1. **Aliquis** ex vōbīs crystallinum frēgit.

あなたたちのうち誰かが水晶の器を壊した。

2. **Dēclāmābam cum aliquō** cotidiē. Cic.Brut.310

私は毎日誰かと弁論の練習をした。

3. **Solve metūs; feret haec aliquam** tibi fāma salūtem. Verg.Aen.1.463

恐れを解け。この名声はおまえに何らかの救済をもたらすだろう。

4. **Sī qua** piōs respectant nūmina, Verg.Aen.1.603

もし何らかの神の力が敬虔な者たちを重んじるのなら、

5. **Nec mortem effugere quisquam** nec amōrem potest. Syr.478

誰も死と愛から逃れることはできない。

6. **Ratiō quasi quaedam** lūx lūmenque vītae. Cic.Acad.2.8.26

理性は人生のいわば光、光明のようなものである。

7. **Sē quisque** fugit. 誰もがみな自分から逃げようとする。Lucr.3.1068

8. **Suus cuique** mōs. 誰にでも自分の習慣がある。Ter.Ph.454

9. **Quintō quōque** annō Sicilia tōta censētur. Cic.Verr.2.139

五年目ごとに（＝四年に一度）シキリア全土で戸口調査が行われる。

10. **Cuīvīs dolorī remedium est patientia.** Syr.111

忍耐はあらゆる悲しみの救済である。

第7章 動詞の活用3

20 直説法・能動態・完了

1. **Vēnī, vīdī, vīcī.** 私は来た、見た、勝った。 Suet.Caes.37

2. **Ōdī et amō.** 私は憎み、そして愛する。 Catul.85.1

3. **Sophoclēs ad summam senectūtem tragoediās fēcit.** Cic.Sen.22

ソポクレスは晩年になって悲劇を書いた。

4. **Fuimus Trōēs, fuit Īlium et ingens glōria Teucrōrum.**

Verg.Aen.2.325

我々は（もはや）トロイヤ人ではない。イーリウムとテウクリア人の大いなる栄光も過去のもの。

5. **Expertus metuit.** 経験者は恐れる。 Hor.Ep.1.18.87

6. **In magnīs et voluisse sat est.** Prop.2.10.6

偉大なことにおいては志しただけでも十分だ。

21 直説法・能動態・未来完了

1. **Ubi Rōmam adveniēs, epistulam scrīpserō.**

あなたがローマに着く頃には、私は手紙を書き終えているだろう。

2. **Nullum putāveris esse locum sine teste.**

証人のいない場所はどこにもないと考えなさい。

3. **Ea vitia quī fūgerit, is omnia ferē vitia vītāverit.** Cic.Or.231

その欠点を逃れた者はほとんどすべての欠点を避けることができよう。

22 直説法・能動態・過去完了

1. **Num quid simile populus Rōmānus audīverat aut vīderat?**

似たようなことをローマ国民は、今まで聞いたり見たりしたことがあっただろうか。 Cic.Amic.41

2. Vīxī et quem **dederat** cursum fortūna perēgī. Verg.Aen.4.653

私は生きた。そして運命が与えた道のりを最後まで歩き通した。

3. Torquātus fīlium suum quod is contrā imperium in hostem **pugnāverat** necārī jussit. Sall.Cat.52

トルクアートゥスは、命令に背いて敵に戦闘を仕掛けたという理由から、自分の息子を殺すよう命じた。

第8章 分詞・動名詞・動形容詞

23 分詞（現在分詞・完了分詞・目的分詞・未来分詞）

1. Stella **micat**. 星は輝く。

2. Stella **micans** est. 輝く星がある。

3. Stellam **micantem** videō. 私は輝く星を見る。 / 私は星が輝くのを見る。

4. **Tacens** vōcem verbaque vultus habet. Ov.A.A.1.574

沈黙した顔は声と言葉を持つ。

5. Eunt annī mōre **fluentis** aquae. Ov.A.A.3.62

歳月は流れる川のように進む。

6. **Amantēs** āmentēs. 恋する者たちは正気でない。 Ter.And.218

7. Dūcunt **volentem** fāta, **nōlentem** trahunt. Sen.Ep.107.11

運命は望む者を導き、拒む者を引きずる。

8. Multa **petentibus** dēsunt multa. Hor.Carm.3.16.42

多くを求める者には多くが欠乏する。

9. Graecia **capta** ferum victōrem cēpit. Hor.Ep.2.1.156

征服されたギリシャは野蛮な勝利者を征服した。

10. Ālea **jacta** est. 賽は投げられた。 Suet.Caes.32

11. **Victī** vīcimus. 我々は負けて勝ったのだ。 Pl.Cas.510

12. Haeduī lēgātōs ad Caesarem mittunt auxilium **rogātum**.

Caes.B.G.1.11 ハエドゥイー族は援助を乞うためカエサルに使者を送る。

13. Id est facile **dictū**, sed difficile **factū**.

いうは易く行うは難し。

14. Disce quasi semper **victūrus**, vīve quasi crās **moritūrus**.

永遠に生きるかのように学び、明日死ぬかのように生きよ。

15. Quō **moritūre** ruis? Verg.Aen.10.811

どこに急ぐのだ、死にゆく者よ。

16. Crās tē **victūrum**, crās dīcis, Postume, semper. Mart.5.58.1

ポストゥムスよ、明日自分は生きるだろう、明日になれば、といつも君はいう。

2 4 動名詞

1. **Scribendī** rectē sapere est et principium et fons. Hor.A.P.309

知恵を持つことは、正しく書くことの始まりであり、源泉である。

2. Ego relictīs rēbus Epidicum operam **quaerendō** dabō. Pl.Ep.605

私は万事後回しにし、エピディクスを探すことに全力を尽くそう。

3. Ego nullam aetātem ad **discendum** arbitror immātūram.

私はいかなる年齢も学ぶのに若すぎることはないと信じる。

4. **Docendō** discimus. 私たちは教えることによって学ぶ。

5. Nihil **agendō** hominēs male agere discunt. Col.11.1.26

人は何もしないことによって、悪い行いを学ぶ。

6. Fāma crescit **eundō**. 噂は進むにつれて大きくなる。

2 5 動形容詞

1. Hic liber **vōbīs** legendus est.

この本はあなた方にとって読まれるべきものである。

2. Vēna **tangenda** est. Sen.Ep.22.1

血管は触れられるべきである。

3. Carthāgō **dēlenda** est. Plin.15.20.74

カルターゴは滅ぼされるべきである。

4. Dē omnibus **dubitandum** est. あらゆる事柄について疑うべきである。

5. **Exeundum** ad libertātem est. 自由に向かって出発すべきである。

6. **Exeundum** nōbīs ad libertātem est.

私たちは自由に向かって出発すべきである。

7. Lēgibus ā cīvibus **pārendum** est. 市民は法律に従うべきである。

8. lubīdō reī pūblicaе **capiendae** Sall.Cat.5

国家を手に入れる欲望（手に入れられるべき国家への欲望）

9. Vēr tamquam adolescentiam significat ostenditque fructūs fūtūrōs,

reliqua autem tempora **dēmetendīs** fructibus et **percipiendīs**

accommodāta sunt. Cic.Sen.70

春はいわば青春時代を表し、来たるべき収穫を約束する一方、残りの季節は、収穫を刈り取り、取り入れるのにふさわしい。

10. Breve tempus aetātis satis longum est ad bene honestēque

vīvendum.

生涯の僅かの時間でも、立派に気高く生きるには十分に長い。 Cic.Sen.19

11. Hoc praeceptum ad **tollendam** amīcitiam valet. Cic.Amic.60

この教えは、友情を損なう力を持つ。

12. Simul in spem veniēbant ējus adfirmātiōne dē reliquīs

adjungendīs cīvitātibus. Caes.B.G.7.30

同時に彼らは、他の部族を味方につけることについての彼の信念によって希望を抱くに至った。

第9章 動詞の活用4

26 直説法・受動態（1）

1. Dī ā nullō **videntur**, ipsī autem omnia vident.

神々は誰にも見られないが、自身はすべてを見ている。

2. Ignis nōn **extinguitur** igne. 火は火によって消えない（消されない）。

3. Probitās **laudātur** et alget. Juv.1.74

正直は称えられ、そして凍える。

4. Eae rēs in Galliam transalpīnam celeriter **perferuntur**. Caes.B.G.7.1

これらの事柄はただちにアルプスの向こう側のガリアに報告される。

5. Sī vīs **amārī**, amā. 愛されたいなら、愛しなさい。 Sen.Ep.9.5

6. Fās est et ab hoste **docērī**. Ov.Met.4.428

敵からも教わる（学ぶ）ことは正しい。

7. Sīc **ītur** ad astra. Verg.Aen.9.641 人はこのようにして星々に向かう。

8. Ācriter **pugnātum est**. 激しく戦いが行われた。

9. Tempora **mūtantur**, et nōs **mūtāmur** in illīs.

時は移ろいゆく。われわれもその中で移ろいゆく。

10. **Omnia vertuntur: certē vertuntur** amōrēs:

vinceris aut vincis, haec in amōre rota est. Prop.2.8.7-8

万物は流転する。確かに愛は流転する。

負かされたり負かしたり。これが愛の車輪である。

11. **Vocābitur** hic quoque vōtīs. Verg.Aen.1.290

彼もまた祈願の際にその名を口にされることになるだろう。

27 直説法・受動態（2）

完了、未来完了、過去完了の受動態

1. Amātus est. 彼は愛された。

2. Amāta est. 彼女は愛された。

3. Amātī sumus. 私たちは愛された。

4. Amātus erō. 私は愛されてしまうだろう。

5. Amātī erunt. 彼らは愛されてしまうだろう。

6. Amātus erās. あなたは（すでに）愛されていた。

7. Amātī erātis. あなたたちは（すでに）愛されていた。

8. Ālea **jacta est**. Suet.Caes.32

賽は投げられた。

9. Frustrā, cum ad senectam **ventum est**, repetās adolescentiam.

Syr.215 老年に至って青春時代を再び求めても無駄である。

28 形式受動態動詞

1. Nīl **admīrārī**. 何にも驚かないこと。 Hor.Ep.1.6.1
2. Nescit vox missa **revertī**. Hor.A.P.390
放たれた言葉は戻ることを知らない。
3. Quī sapienter vīxerit aequō animō **moriētur**.
賢明に生きた人は平静な心で死ぬだろう。
4. Cor ad cor **loquitur**. 心が心に語りかける。
5. Spem metus **sequitur**. Sen.Ep.1.5.7
恐怖が希望の後を追う。
6. Dum **loquor**, hōra fugit. Ov.Am.1.11.15
私がおしゃべりする間、時は逃げる。
7. Rēs **loquitur ipsa**. Cic.Mil.20.53
事実そのものが語る。
8. **Indignor** quandōque bonus dormītat Homērus. Hor.A.P.359
立派なホメールスが居眠りするたび私は憤慨する。
9. Saepius Andromachē sē ferre incomitāta **solēbat** ad socerōs.
アンドロマケーは、従者を連れず夫の両親のもとに足繁く通う習わしであった。 Verg.Aen.2.456-457
10. hīc prīmum Aenēās spērāre salūtem **ausus**,... Verg.Aen.1.451-452
ここではじめてアエネーアースは勇気をふるって救済の希望を持ち、
11. Illa manū **moriens** tēlum trahit. Verg.Aen.11.816
彼女は死が迫りながらも手で槍を抜く。
12. Avē imperātor, **moritūrī** tē salūtant. Suet.DivusCalud.21
さらば將軍よ、死にゆく者たちがあなたに（最後の）挨拶をする。
13. Ipse pater dextram Anchīsēs haud multa **morātus** dat juvenī.
Verg.Aen.3.610-611
父アンキーセース自身は、少しためらってから右手を若者に与える。
14. **fīsus** cuncta sibi cessūra perīcula Caesar,... Lucan.5.577

カエサルはあらゆる危険は自分に屈服すると信じつつ、

15. **Aegrescit medendō.** Verg.Aen.12.46

彼はなだめることで感情が激する。

16. **Omnibus hominibus moriendum est.**

すべての人間は死すべき存在である。

17. **Dī mē tuentur.** 神々は私を見守り給う。

18. **Ita prorsum oblītus sum meī.** Ter.Eun.2.3.15

こうして私は自分のことをすっかり忘れてしまった。

19. **Aliī reminiscēbantur veteris fāmae.** Nep.Phoc.4

昔の名声を思い出す者たちもいた。

20. **Beātī aevō sempiternō fruuntur.** Cic.Rep.6.13

幸福な者たちは永遠の命を享受する。

21. **urbe potīrī** 都市を手に入れること

22. **Dē rēbus ipsīs ūtere tuō jūdicīō.** Cic.Off.1.2

事柄そのものについては自分の判断を用いるがよい。

23. **Vērē ac liberē loquere.** ありのまま自由に語れ。

24. **Sequere nātūram.** 自然に従え。

25. **Turne, in tē suprēma salūs, miserēre tuōrum.** Verg.Aen.12.653

トゥルヌスよ、おまえに最後の希望がかかっている。仲間を憐れむがよい。

29 不定法

1. **Vidēre est crēdere.** 見ることは信じることである。

2. **Errāre hūmānum est.** 間違ふことは人間らしい。

3. **Vincere scīs, Hannibal, victōriā ūtī nescīs.** Liv.22.51

ハンニバルよ、おまえは勝つ術は心得ていても、勝利を生かす法を知らぬ。

4. **Mementō morī.** 死ぬことを忘れるな。

5. **Brevis esse labōrō, obscurus fīō.** Hor.A.P.25-26

私は簡潔であろうとし、曖昧になる。

6. **Intellegō tē sapere.** 私は君が賢明であると理解している。

7. Eās rēs **jactārī** nōlēbat. Caes.B.G.1.18

彼は、それらの問題が議論されることを望まなかった。

8. Tum Catilīna **pollicērī** novās tabulās. Sall.Cat.21

その時カティリーナは借金の帳消しを約束した。

第10章 代名詞2・その他

30 関係代名詞

1. Nēmō līber est **quī** corporī servit. Sen.Ep.92.33

肉体に従う者は誰も自由ではない。

2. Deus ille fuit **quī** princeps vītae ratiōnem invēnit. Lucr.5.8-9

人生の原理を最初に発見した彼こそは神であった。

3. Bis vincit **quī** sē vincit in victōriā. Syr.77

勝利の中で己に勝利する者は二度勝利する。

4. Deum colit **quī** nōvit. 神を知る者は神を敬う。 Sen.Ep.95.47

5. Ō fortūnātī, **quōrum** jam moenia surgunt! Verg.Aen.1.437

ああ幸いなるかな、すでにそびえ立つ城壁を持つ者たちは。

6. Numquam est ille miser **cuī** facile est morī. Sen.Herc.Oet.111

死ぬことがたやすい者は惨めでは決してない。

7. Age **quod** agis. あなたのしていることをせよ。

8. Cārum ipsum verbum est amōris, ex **quō** amīcitiae nōmen est ductum.

Cic.N.D.1.122

愛（アモル）という言葉自体魅惑的であり、この言葉から友愛（アミーキティア）の名称も生まれたのである。

9. Quis est, **quī** complet aurēs, tantus et tam dulcis sonus?

Cic.Rep.6.18

耳を満たす、これほど大きく、これほど妙なる調べは一体何なのか。

10. **Quae** dum in Asiā geruntur, Nep.Hannibal.12

またこれらが小アジアでなされていた間、

11. **Quam** ob causam summus ille caelī stellifer cursus,
Cic.Rep..6.18

またこの理由により、星を運ぶ最も高いあの天の軌道は、

12. **Quidquid** praecipīēs, estō brevis. Hor.A.P.335

あなたが何を教えるにせよ、短くあれ。

13. **Quaecumque** est fortūna, mea est. Verg.Aen.12.694

運命がどのようなものであれ、それは私のものだ。

14. Fidēs, ut anima, **unde** abiit, eō numquam redit.

信頼は魂と同じく、立ち去ったところに二度と戻らない。

15. **Ubi** amīcī ibīdem sunt opēs. Pl.Truc.885

友のいるところ、そこに富がある。

16. **Ubicumque** homō est, ibi beneficiī locus est. Sen.Vit.24.3

人間のいるところはどこであれ、そこには善行の機会がある。

3 1 副詞

1. Festīnā **lentē**. ゆっくり急げ。 Suet.Aug.25

2. **Pulchrē, bene, rectē**. 美しく、善く、正しく。 Hor.A.P.428

3. Nēmō fortūnam **jūrē** accūsāt. 誰も運命を正当に非難できない。

4. **Etiam** hostī est aequus quī habet in consiliō fidem. Syr.188

(自分の) 考えに信念を持つ者は敵に対してさえ公正である。

5. **Haud** ignōta loquor. Verg.Aen.2.91

私は誰もが知っていることを語っている。

6. **Nunc** aut numquam. 今(やる)か決して(やら)ないか。

7. **Hodiē, nōn crās**. 今日こそ、明日ではなく。

8. **Vīve hodiē**. 今日生きよ。

9. Dēliberandō **saepe** perit occāsiō. Syr.163

何度も熟考することによって好機は失われる。

10. Amāre et sapere **vix** deō concēditur. Syr.22

恋することと賢明であることは、神によってほとんど認められていない。

11. **Nusquam** est quī ubīque est. Sen.Ep.2.2

どこにでもいる者はどこにもいない。

12. Dōna praesentis cape **laetus** hōrae. Hor.Carm.3.8.27

今ここに流れる「時」の贈り物を喜んで受け取るがよい。

3 2 前置詞

1. Abī **ad** formīcam, ō piger. 蟻の所へ行け、おお怠惰な者よ。

2. Ab ōvō usque **ad** māla. 卵からリンゴまでずっと。

3. Per aspera **ad** astra. 苦難を通じて星々（栄光）へ。

4. **ad** lūcem 夜明け頃

5. **Ad** multam noctem pugnātum est. Caes.B.G.1.26

夜遅くまで戦いが行われた。

6. Nē sīs miser **ante** tempus. Sen.Ep.13.4

時が来るよりも先に惨めな気持ちになるな（先走りして苦勞するな）

7. Nē mittātis margarītās vestrās **ante** porcōs.

豚の前に汝らの真珠を投げることなかれ。

8. Numquid **apud** Parthōs Armeniōsque latet? Mart.5.58.4

まさか、それはパルティア人やアルメニア人のところに隠れているのではあるまいね。

9. Errābant, actī fātīs, maria omnia **circum**. Verg.Aen.1.32

彼ら（トロイヤ人）は運命に翻弄され、あらゆる海をさまよった。

10. Bellum omnium **contrā** omnēs. 万人の万人に対する戦い

(bellum,-ī n. 戦い)

11. Spemque metumque **inter** dubiī. Verg.Aen.1.218

彼らは希望と恐怖の間で揺れている。

12. **Inter** arma silent Mūsae. 戦争の間ムーサたちは沈黙する。

13. Magnās **inter** opēs inops. 大きな富の中の欠乏。Hor.Carm.3.16.28

14. **ob** eam causam その理由のために

15. **ob** stultitiam 愚かさゆえに

16. Longum est iter **per** praecepta, breve et efficāx per exempla.

教えによる道のりは長い。手本による道のりは短く効果的。Sen.Ep.6.5

17. Ede, bibe, lūde, **post** mortem nulla voluptās.

食べよ、飲めよ、遊べ。死後に快樂なし。

18. **Post** nūbila Phoebus. 雨の後に太陽。
19. Est ingens gelidum lūcus **prope** Caeritis amnem. Verg.Aen.8.597
大きな聖林が、カエレの冷たい川のそばにある。
20. **propter** amōrem virtūtis 美德への愛ゆえに
21. Caelum nōn animum mūtant quī **trans** mare currunt.
海を越えて行く者たちは心でなく空を変える。 Hor.Ep.1.11.27
22. **ā** capite ad calcem 頭からかかとまで。徹頭徹尾。
23. **ab** incūnābulīs 揺りかごから、幼少の頃から
24. **Ā** fonte pūrō pūra dēfluit aqua. 清らかな泉から清らかな水が流れる。
25. **Ab** ūnō disce omnēs. 一からすべてを学べ。 Verg.Aen.2.65-66
(ūnus,-a,-um 一つ discō,-ere 学ぶ omnis,-e すべての)
26. Cantābit vacuus **cōram** latrōne viātor.
一文なしの旅人は盗賊の前で鼻歌を歌うだろう。 Juv.10.22
27. ōtium **cum** dignitāte 威厳ある余暇 Cic.D.O.1.1
28. **cum** laude 優等で
29. **cum** primā lūce 明け方に
30. **dē** profundīs 深い底から
31. **dē** marmore templum 大理石の神殿
32. **Dē** Nātūrā Deōrum 『神々の本性について』 (キケローの作品名)
33. **dē** mōre mājōrum 先祖の習慣にしたがって
34. Amor **ex** oculīs oriens in pectus cadit.
愛は目から生じ胸に落ちる。
35. Bonae lēgēs malīs **ex** mōribus prōcreantur.
よき法律は悪しき習慣から生まれる。
36. **Ex** nihilō nihil fit. 無から何も生じない。
(nihil 無 fīō,fierī 生じる)
37. **Ē** flammā cibum petere.
(祭壇の) 炎から食べ物を求めること (貧すれば鈍する)
38. **prae** sē 自分の前に
39. **prō** memoriā 記憶のために
40. **prō** ārīs et focīs 祭壇と炉にかけて (誓う)
41. Ōtium **sine** litterīs mors est. Sen.Ep.82.3

学問なき閑暇は死である。

42. Nulla diēs **sine** lineā. Plin.35.10.36

一本の線も引かない日は一日もない。

43. **in perpetuum** 永遠に

44. Dum vitant stultī vitia, **in contrāria** currunt. Hor.Sat.1.2.24

愚者は過ちを避けようとして反対（の過ち）に向かって走って行く。

45. **In vīnō** vērītās. 酒の中に真理あり。

46. Lupus **in fābulā**. 話の中のオオカミ（噂をすれば影）。Ter.Ad.537

47. **Sub** montem succēdunt mīlitēs. Caes.B.C.1.45

兵士らは山の下に接近する。

48. **sub** rosā 薔薇の花の下で（「内密の」という意味）。

49. Omnia mēcum portō mea. Cic.Par.8

私は自分のすべてのものを持ち歩く。

50. Nam vitiīs nēmō **sine** nascitur. Hor.Sat.1.3.68

というのも誰も欠点なしに生まれてこないから。

3 3 比較

1. Nīlus **longior** est **quam** Rhēnus. ナイル川はライン川より長い。

2. Nīlus **longior** est **Rhēnō**. ナイル川はライン川より長い。

3. Dolor animī **gravior** est quam corporis. Syr.166

心の痛みは肉体の痛みより重い。

4. **Pējor** odiō amōris simulātiō. 愛の見せかけは憎しみより悪い。

5. Famēs est **optimus** coquus. 空腹は最良の料理人である。

6. **Hōrum omnium** fortissimī sunt Belgae. Caes.B.G.1.1

これらすべての（部族の）中で最も勇猛なのがベルガエ族である。

7. **Altissima** quaeque flūmina **minimō** sonō lābuntur. Curt.7.4

深い川はめいめいほとんど音も立てずに流れる。

8. **Gravissima** est probī hominis iracundia. Syr.230

高潔な人間の怒りは極めて甚だしい。

9. Nihil est virtūte **amābilis**. Cic.Amic.28

美德以上に愛すべきものはない。

10. Nihil est **difficilius** quam bene imperāre.

よく支配すること以上に難しいことはない。

11. **Plūs** apud mē antiquōrum auctoritās valet. Cic.Amic.13

私には昔の人々の影響の方がより大きな力を持つ。

12. Parēs cum paribus **facillimē** congregantur. Cic.Sen.7

似た者は似た者と最も容易に集まる。

3 4 数詞

1. **Ūnō** saltū **duōs** aprōs capere. Pl.Cas.476

一つの森で二頭のイノシシをつかまえること。

2. Ipse ab hostium castrīs nōn longius **mille et quīngentīs** passibus
aberat. Caes.B.G.1.22

彼自身は敵の陣営から 1500 パッスス（1.5 ローマ・マイル）足らず離れた所にいた。

3. Hostēs sub monte consēdērunt **mīlia** passuum ab ējus castrīs **octō**.
Caes.B.G.1.21

敵は彼の陣営から 8000 パッスス離れた山の麓に野営した。

4. Crīmine ab **ūnō** disce omnēs. Verg.Aen.2.65-66

一つの悪事からすべてを学べ。

5. Uxōrem dūxit: nātī filiī **duo**. Ter.Ad.46-47

彼は妻をめとった。2人の息子が生まれた。

6. **Quīnquāgintā ūnum** annōs nātus sum. 私は 51 歳です。

7. Haec **deciens** repetīta placēbit. Hor.A.P.365

これ（この詩）は十回求められても喜びを与えるだろう。

8. Discrībēbat censōrēs **bīnōs** in **singulās** cīvitātēs. Cic.Verr.2.133

彼は各都市に二人ずつの監察官を割り当てた。

第 1 1 章 動詞 5

3 5 接続法の活用と単文での用法

1. Prōdit nesciō quis: **concedam** hūc. Ter.Ad.635
誰かが出てくるぞ。こっちに退こう。
2. **Vivāmus**, mea Lesbia, atque **amēmus**. Catul.5.1
生きよう、私のレスビア、そして愛し合おう。
3. **Cēdant** arma togae. 武器はトガに譲るべし。 Cic.Off.1.77
4. Animī bonum animus **inveniat**. Sen.Vit.2.2
魂の善良さは魂が見出すべきである。
5. Aura, **veniās**. そよ風よ、おいで。 Ov.Met.7.813
6. Nē **exeat**. 彼に外出させてはならない。
7. Immortālia nē **spērēs**. Hor.Carm.4.7.7
(あなたは) 不死なるものを望まないようにせよ。
8. Nē hoc **fēceris**. (あなたは) これをしてはいけない。
9. Nē **sit** summum malum dolor, malum certē est. Cic.Tusc.2.14
苦痛は最高の悪ではないにせよ、確かに悪ではある。
10. Tē ustus **amem**. Prop.3.15
私はあなたを灰になっても愛したい。
11. Utinam hinc **abierit** in malam crucem! Pl.Poen.799
願わくは、あいつがここから忌まわしい十字架に立ち去ったのならよいのだが。
12. Utinam avis **essem**! 私は鳥だったらいいのに。
13. Utinam ille omnīs sēcum suās cōpiās **ēdūxisset**! Cic.Cat.2.4
彼が自分のすべての軍勢を(国外に)連れ出したならよかったのに。
14. Aliquis hoc **faciat**. 誰かがこれをするかもしれない。
15. Itaque haud facile **discernerēs** utrum imperātōrī an exercituī cārīor **esset**. Liv.21.4
それゆえ、彼が指揮官か兵士たちのどちらにより愛されたかは、容易に判断できるものではない。
16. Quid **faciam**? **Dīcam** frātris esse hanc? Ter.Ad.625

どうしたらいいのだろうか。この娘が弟のものだといおうか。

17. **Quid faciant** lēgēs ubi sōla pecūnia regnat? Petr.14

金銭だけが支配する時、法律に一体何ができようか。

18. **Quid facerem?** 私はどうしたらよかったのか? Ter.Ad.214

3 6 接続法の複文での用法 (1)

1. Neque satis Brutō neque tribūnīs mīlitum **constābat**, quid **agerent**.

ブルートゥスも軍団長たちも、自分たちがどうすればよいか、十分決めきれずにいた。Caes.B.G.3.14

2. Idem esse dīcēbat Sōcratēs vērītātem et virtūtem. Sen.Ep.71.16

ソークラテースは真理と美德は同じものだといっていた。

3. Nihil malī **accidisse** Scīpiōnī putō. Cic.Amic.10

スキープイオーには何も不幸は起きなかったと私は思う。

4. **Quis sit** dīvitiārum modus quaeris? Sen.Ep.2.6

富の限度は何かと君は尋ねるのか。

5. haud ignārus eram quantum nova glōria in armīs
et praedulce decus prīmō certāmine **posset**. Verg.Aen.11.155

私も知らぬわけではなかった、戦場での最初の栄光、
初陣での誉れがどれほど魅力的であるかは。

6. Docēbat **ut** omnī tempore tōtīus Galliae principātum Haeduī
tenuissent. Caes.B.G.1.43

彼は、昔からいかにしてハエドゥイー族が全ガッリアの主導権を握ってきたかについて教えた。

7. Hanc **sī** nostrī transīrent hostēs expectābant. Caes.B.G.2.9

敵は我が軍がこれを渡るかどうか危惧していた。

8. Nuntius vēnit bellum Athēniensēs et Boeōtōs indīxisse
Lacedaemoniīs; quāre venīre **nē** dubitāret. Nep.Ages.4

アテーナエ人とボエオーティー人がラケダエモニイー人に宣戦布告した、それゆえ帰国をためらうなという知らせが届いた。

9. Athēniensēs et Boeōtī **indīxērunt** Lacedaemoniīs; quāre venīre nōlī dubitāre.

アテーナーエ人とボエオーティー人はラケダエモニー一人に宣戦布告した。
それゆえ帰国をためらうな。

10. **Dīcit: Rosam quam carpō puellae dabō.**

彼はいう、「私は摘んでいるバラを少女に与えるだろう」。

11. **Dīcit sē rosam quam carpat puellae datūrum esse.**

彼は、自分の摘んでいるバラを少女に与えるだろうという。

12. **Dīxit sē rosam quam carperet puellae datūrum esse.**

彼は、自分の摘んでいるバラを少女に与えるだろうといった。

13. **Dīcit: Rosam quam carpsī puellae dabō.**

彼はいう、「私は摘んだバラを少女に与えるだろう」。

14. **Dīcit sē rosam quam carpserit puellae datūrum esse.**

彼は、自分の摘んだバラを少女に与えるだろうという。

15. **Dīxit sē rosam quam carpsisset puellae datūrum esse.**

彼は、自分の摘んだバラを少女に与えるだろうといった。

16. **Dīcit: Sī hoc faciās, laudāberis.**

彼はいう、「もし君がこれを行えば、君はほめられるだろう」。

17. **Dīcit, sī hoc faciās, tē laudātum īrī.**

彼は、もし君がこれを行えば、君はほめられるだろうという。

18. **Dīxit, sī hoc facerēs, tē laudātum īrī.**

彼は、もし君がこれを行えば、君はほめられるだろうといった。

19. **Dīcit: Sī avis essem, ad tē volārem.**

彼はいう、「もし私が鳥であれば、あなたのところに飛んでいくのに」。

20. **Dīcit (dīxit) sē, sī avis essem, ad tē volātūrum fuisse.**

彼は、もし自分が鳥であれば、あなたのところに飛んでいくのにといい
(いった)。

21. **Dīcit: Sī hoc fēcissēs, laudātus essēs.**

彼はいう、「もし君がこれを行っていたら、君はほめられただろう」。

22. **Dīcit (dīxit)** , sī hoc **fēcissēs, futūrum fuisse ut laudārēris.**
彼は、もし君がこれを行っていたら、君はほめられたらろうという（いった）。
23. **Caesar suīs imperāvit nē quod omnīnō tēlum in hostēs rēicerent.**
Caes.B.G.1.46
カエサルは自軍の兵士たちに、敵に向かって一切飛び道具を投げ返すことのないようにと命じた。
24. **Quis dubitet quīn in virtūte dīvitiae sint?** Cic.Par.48
美德の中に富があることを誰が疑うだろうか。
25. **Nihil impedit nē amēmus.**
私たちが愛することを妨げるものは何もない。
26. **Nōn dēterret sapientem mors quōminus in omne tempus reī pūblicaē consulat.** Cic.Tusc.1.91
死は賢者が始終国家への配慮を行うことを妨げるものではない。
27. **Eādem nocte accidit ut esset lūna plēna.** Caes.B.G.4.29
その夜はたまたま満月であった。
28. **Hoc cotīdiē meditāre, ut possīs aequō animō vītā relinquare.**
Sen.Ep.4.5
このことを毎日思案するようにせよ、あなたが平静な心で人生を後にできることを。
29. **Equitātum quī sustinēret impetum mīsīt.** Caes.B.G.1.24
彼は攻撃を食い止めるため、騎兵隊を送った。
30. **Quālis esset nātūra montis et quālis in circuitū ascensus quī cognoscerent mīsīt.** Caes.B.G.1.21
彼は山の特徴や周囲の坂道がどのようなものかを調査するため、人員を派遣した。
31. **Sed quoniam rēs hūmānae fragilēs cadūcae sunt, semper aliquī anquīrendī sunt quōs dīligāmus et ā quibus dīligāmur.**
Cic.Amic.102

だが、人間に関わる出来事はもろくはかないものなので、愛し、愛される人を誰か、常に探し求めなければならない。

32. Nam quid ego tē athlētās putem dēsīderāre, **quī** gladiātōrēs contempseris? in quibus ipse Pompējus confitētur sē et operam et oleum perdidisse. Cic.Fam.7.1

というのも、あなたが運動家に熱を上げるとどうして私が考えようか。剣闘士たちを軽蔑していたあなたなのだから。これらの者についてはポンペイユス自身、自分が労力と油を失ったと認めている。

3 7 接続法の複文での用法 (2)

1. Oportet ēsse **ut** vīvās, nōn vīvere **ut** edās.

あなたは生きるために食べるべきであり、食べるために生きてはならない。

2. Gallīnae pennīs fovent pullōs, **nē** frīgōre laedantur. Cic.N.D.2.129

めんどりは、寒さによって損なわれないように、羽でひよこを暖める。

3. Lēgem brevem esse oportet, **quō** **facilius** ab imperītīs teneātur.

Sen.Ep.94.38

法律は専門家でない者にもいっそうたやすく理解されるように短くなければならない。

4. Faciam **ut** monēs. Ter.Hec.719 私はあなたが忠告する通りにしよう。

5. **Ut** initium, **sīc** fīnis est. Sall.Jug.2

始めがあるように、(そのように) 終わりがある。

6. Parvī enim prīmō ortū **sīc** jacent, **tamquam** omnīnō sine animō sint.

Cic.Fin.5.42

というのも、赤子は生まれたばかりの時は、まるで一切精神を持たないかのように横になっているからである。

7. **Ita** vīta est hominum **quasi** cum lūdās tesserīs. Ter.Ad.739

人生はさいころで遊ぶようなものだ。

8. Noctū ambulābat in pūblicō Themistoclēs **quod** somnum capere nōn posset. Cic.Tusc.4.44

テミストクレスは眠りにつけないからといって、夜中に公の場所を散歩していた。

9. **Cum** legere nōn possīs quantum habueris, satis est habēre quantum legās. Sen.Ep.1.2

持てるだけの量（＝蔵書のすべて）を読むことはできないのだから、読めるだけ（の本）を持つだけで十分である。

10. Zēnōnem **cum** Athēnīs essem audiēbam frequenter. Cic.N.D.1.59

私はアテーナエにいた時、ゼーノーネ（の講義）をよく聞いた。

11. nec vātēs Helenus, **cum** multa horrenda monēret, hōs mihi praedīxit luctūs, nōn dīra Celaenō. Verg.Aen.3.712-713

予言者ヘレヌスは、多くの恐ろしい出来事を警告したが、彼も不吉なケラエノーも、これらの悲しみはわたしに予言してくれなかった。

12. Sī valēs, bene est. もしあなたが元気なら結構である。

13. Sī latet, ars **prōdest**. Ov.A.A.2.313

もし隠れるなら、技術は役に立つ。

14. Memoria **minuitur** nisi eam **exerceās**. Cic.Sen.21

記憶力はそれを鍛えなければ衰える。

15. Magnō mē metū **liberābis**, dum modo inter mē atque tē mūrus **intersit**. Cic.Cat.1.10

おまえと私との間に城壁がある限り、おまえは私を大いなる恐怖から解き放つだろう。

16. Sī vīveret, verba ējus **audīrētis**. Cic.Rosc.42

もし彼が生きていたら、あなた方は彼の言葉を聞くことができるのに。

17. Sī ibi tē esse **scīsem**, ad tē ipse **vēnissem**. Cic.Fin.3.8

もし君がそこにいると知っていたら、私は自ら君の所に行っただろう。

18. Sīc enim Graecē loquēbātur **ut** Athēnīs nātus vidērētur.

Nep.Att.4

実際、彼はギリシャ語がとても上手に話せたので、アテーナエ生まれかと思われるほどであった。

19. Nihil **tam** difficile est **quān** quaerendō investigārī possiet.

Ter.Heaut.675

何事も探求して見出せないほど困難なものはない。

第 12 章 様々な構文

38 非人称構文

1. at Boreae dē parte trucidis cum **fulminat** et cum Eurīque Zephyrīque **tonat** domus, Verg.Geo.1.370-371

だが残酷なボレアス（北風）の吹く場所から雷光が発せられる時、またエウルス（南東の風）やゼピュルス（西風）の館が雷鳴をとどろかせる時、

（Boreas,-ae m. 北風 pars,-tis f. 部分、場所 trux,-ucis 残酷な Eurus,-ī m. 南東の風 Zephyrus,-ī m. 西風 domus,-ūs f. 家、館）

2. Num senectūtis eum suae **paenitēbat**? Cic.Sen.19

彼は自分の老年を悔いていただろうか。

3. **Taedet** tuī sermōnis. Pl.Cas.143

おまえの話にはうんざりだ（おまえの話は嫌になる）。

4. **Licet** tibi lacrimāre. あなたは泣いてもいい。

5. **Decet** verēcundum esse adolescentem. Pl.As.833

若者は慎み深くあるのがふさわしい。

6. Mendācem memorem esse **oportet**. Quint.4.2.92

嘘つきは記憶がよくないといけない。

7. Hominī **nesesse est** morī. 人間は死なねばならない。

8. Nec scīre **fās est** omnia. Hor.Carm.4.4.22

すべてを知ることが許されていない。

9. Auctoritāte tuā nōbīs **opus est**. Cic.Fam.9.25

私たちには君の権威が必要だ。

10. Id meā minimē **rēfert**. それは私にとってまったく重要ではない。

11. Neque **rēfert** vidēre quid dīcendum sit, nisi id queās solūtē et suāviter dīcere. Cic.Brut.110

もしよどみなく、そして心地よく語ることができなければ、何をいうべきかを理解することは重要ではない。

12. *Quid meā rēfert, hae Athēnīs nātae an Thēbīs sient. Pl.Rud.746*

ここにいる娘たちがアテーナエ生まれかテーバエ生まれかなんて、なんでわしに関係するものか。

13. *Quiescentī agendum et agentī quiescendum est. Sen.Ep.3.6*

休息している者には行動が、行動している者には休息が必要である。

14. *Nōn statim pervenītur ad summum.*

(人は) ただちに頂上に到達することはない。

39 絶対的奪格

1. *Caesar, acceptīs litterīs, nuntium mittit. Caes.B.G.5.46*

カエサルは手紙を受け取ると使者を送る。

2. *Quid rīdēs? Mūtātō nōmine dē tē fābula narrātur.*

なぜおまえは笑うのか。名前を変えると、その話はおまえについて語っているのに。 *Hor.Sat.1.1.69-70*

3. *Nātūrā duce numquam aberrābimus.*

自然を導き手にすれば、我々は決して間違うことがないだろう。

4. *Hīs rēbus cognitīs ā captīvīs perfugīsque Caesar praemissō equitātū confestim legiōnēs subsequī jussit. Caes.B.G.5.18*

カエサルは、これらのことを脱走兵や捕虜から知ると、騎兵隊を先発させ、軍団にも速やかに後に続くよう命じた。

5. *Maximās vērō virtūtēs jacēre omnīs necesse est voluptāte dominante. Cic.Fin.2.117*

だが快樂が支配する時、主立った美德のすべてが地に伏すのは必然である。

40 疑問文

1. *Esne beātus?* あなたは幸福か。

2. *Amāsne libertātem?* あなたは自由を愛するか。

3. *Nōnne libertātem amāmus?* 我々は自由を愛さないだろうか。

4. **Num** servitūtem amāmus? 我々は隷属を愛するだろうか。
5. Ita est. そうです。
6. Nōn est ita. そうではない。
7. **Ubi** sunt? 彼らは今どこにいるのか。
8. **Ubi** est? Aut **unde** petendum? Mart.5.58.3
それはどこにあるのか。あるいはどこで手に入るのか。
9. **Quō** vādis, domine? 主よ、あなたはどこに行くのか。
10. Dīc mihi, crās istud, Postume, **quandō** venit? Mart.5.58.2
おまえの「明日」は、ポストゥムスよ、いつ訪れるのか、いつてくれ。
11. **Quamdiū** apud vōs erō?
私はどれだけ長く（いつまで）あなた方のところにいるだろうか。
12. **Quousquē** humī dēfixa tua mens erit? Cic.Rep.6.17
おまえの心はいつまで地上に釘付けになっているのか。
13. Vērūm **cūr** nōn audīmus? Quia nōn dīcimus.
我々は真実をなぜ聞かないのか。なぜなら我々が（真実を）いわないから。
14. Ōdī et amō. **Quārē** id faciam, fortasse requīris. Catul.85.1
われ憎みかつ愛す。なぜそんなことができるのか、君はたぶん聞くだろう。
15. Sed **quid** ego aliōs? Ad mē ipsum jam revertar. Cic.Sen.45
だがなぜ私は他人について語るのか。ここで自分自身のことに戻ろう。
16. **Quī** potuī melius? Ter.Ad.215
どうすればもっとうまくできたのか。
17. Quaerō deus **quō modō** beātus sit, **quō modō** aeternus.
Cic.N.D.1.104
私は問う、神はどうして幸福であり永遠であるといえるかと。
18. **Quot** humī morientia corpora fundis? Verg.Aen.11.665
おまえはどれだけ多くの死体を大地に投げ倒すのか。
19. **Quam multa** sub undās scūta virum galeāsque et fortia corpora
volvēs, Thybrī pater! Verg.Aen.8.538-540

あなたは流れの下へ、どれだけ多くの兵士らの盾や兜や屈強な体を転がし
運ぶのだろう、父なるティベリスよ。

20. **Heu quantae miseris caedēs Laurentibus instant!**

Verg.Aen.8.537

ああ、哀れなラウレンテース軍にはなんと大きな殺戮が待ち受けることか。

21. **Mūnera quanta dedī vel quālia carmina fēcī!**

Prop.2.8.11

私はどれだけ多くの贈り物を与え、どれだけ優れた詩を作ったか。

22. **illa tamen numquam ferrea dīxit 'Amō.'** Prop.2.8.12

しかし彼女の心は鉄のように堅く「愛している」とは決していわなかった。

23. **Quantum mūtātus ab illō Hectore!** Verg.Aen.2.274-5

あのヘクトルからどんなに変わり果てたことか。

24. **Uter ex hīs tibi sapiens vidētur?** Sen.Ep.90.14

これら（二人）のどちらが君には賢者に見えるのか。

25. **Ō quotiens et quae nōbīs Galatēa locūta est!** Verg.Ecl.3.72

おお、ガラテアは私に何回、なんと甘い言葉をささやいてくれたことか。

26. **Quālis artifex pereō!** Suet.Nero.49

何という芸術家として私は死ぬことか。

付録 格のまとめ

1. **Rāra** juvant. 珍しいものは（人を）喜ばせる。 Mart.4.29.3

2. **Homō** sum. 私は人間である。 Ter.Heaut.77

3. **Lupus** est **homō** hominī, nōn **homō**. Pl.As.495

人間は人間にとって狼であり、人間ではない。

4. Et genus et formam **rēgīna** pecūnia dōnat. Hor.Ep.1.6.37

金銭は女王のように、身分と身なりを授けてくれる。

5. **Bōs** quoque formōsa est. 彼女は牛になっても美しい。 Ov.Met.1.612

6. **Ō tempora!** **Ō mōrēs!** おお時代よ。おお風習よ。 Cic.Cat.1.2

7. **Ō caelum,** **ō terra,** **ō maria** Neptūnī! Ter.Ad.790

おお天よ、おお大地よ、おおネプトゥーンヌスの海よ。

8. Heu **pietās!** heu **prisca fidēs!** Verg.Aen.6.878
 ああ敬虔よ、ああ古来の信義よ。
9. pater **historiae** 歴史の父 Cic.Leg.1.5
10. **Māter artium** necessitās. 必要は技術の母（である）
11. **Ō vītae** philosophia dux. おお、人生の指導者たる哲学よ。
 Cic.Tusc.5.5
12. **Hominis** est errāre. 間違ふことは人間の特質である。
13. **Pauperis** est numerāre pecus. Ov.Met.13.824
 家畜の数を数えるのは貧乏人の性分である。
14. **Hōrum omnium** fortissimī sunt Belgae. Caes.B.G.1.1
 これらすべての（部族）の中で最も勇猛なのがベルガエ族である。
15. Amor **deī** magnus est. 神の愛は大きなものである。
16. lacrimae **rērum** Verg.Aen.1.462
 人間の営みに対する涙
17. vir **magnae sapientiae** 大きな知恵の男
18. Fortūna adversa virum **magnae sapientiae** nōn terret.
 逆境は大きな知恵を持つ男を脅かさない。
19. praemium **vītae aeternae** 永遠の命という報酬
20. Quis genus **Aeneadum**, quis **Trōjae** nesciat urbem?
 Verg.Aen.1.565
 誰がアエネーアースの一族を、誰がトロイヤの都を知らないだろうか。
21. Is quidem **nihilī** est quī nihil amat. Pl.Pers.179-180
 何も愛さない者は、まったく何の値打ちもない。
22. In rēbus dubiīs **plūrimī** est audācia. Syr.298
 危機的状況では勇気が最大の価値を持つ。
23. **veteris contumēliae** oblīviscī Caes.B.G.1.14
 古い侮辱を忘れること
24. Vīve memor **mortis**. 死を記憶して生きよ。
25. **Populī Rōmānī** est propria lībertās.
 自由はローマ国民固有のものである。
26. **Dōnā nōbīs** pācem. 我々に平和を与えたまえ。
27. **Grātiās tibi** agō. ありがとう。

28. Nec cōgitandī, Sparse, nec quiescendī in urbe locus est **pauperī**.
Mart.12.57.3-4
スパルススよ、都会には貧乏人が考えたり休息する場所なんてない。
29. **Dōnō** dedit. 彼（女）は贈り物として与えた。
30. Virtūs sōla neque datur **dōnō** neque accipitur.
美德だけは贈り物として与えられたり、受け取られたりしない。
31. Nihil difficile **amantī**. 恋する者に困難なし。
32. Quid **tibi** vīs? 君は一体何を望むのか。 Cic.D.O.2.269
33. Animus **mihī** dolet. 私の心は痛む。 Pl.Merc.388
34. Dīligentia praecipuē colenda est **nōbīs**. Cic.D.O.2.148
精励は私たちによって何よりも大切にされねばならない。
35. Sōl **omnibus** lūcet. 太陽は万物のために輝く。 Petr.100
36. Nōn **vītae** sed **scholae** discimus. Sen.Ep.106.12
我々は人生のためでなく学派のために学んでいる。
37. **Expertō** crēdite. 経験者を信じよ。 Verg.Aen.11.283
38. Hīs rēbus **fugae** similem profectiōnem effēcit. Caes.B.G.6.7
このような事柄によって、彼は出発を逃亡に似せた。
39. **Crescentem** sequitur cūra **pecūniam**. Hor.Carm.3.16.17
増える金銭の後を不安が追いかける。
40. **Mīrum** atque **inscītum** somniāvī **somnium**. Pl.Rud.597
私は不思議で経験したことのない夢を見た。
41. **multōs annōs** 長年にわたって
42. **noctēs** et **diēs** urgērī Cic.D.O.1.260
昼も夜も苦しめられること
43. Ab hīs castrīs oppidum Rēmōrum nōmine Bibrax aberat **mīlia**
passuum octō. Caes.B.G.2.6
レーミー族のビブラクスという町は、この陣営から八マイル離れていた。
44. **Rōmam** eō. 私はローマに行く。
45. Expediam dictīs, et **tē tua fāta** docēbō. Verg.Aen.6.759
言葉で説明しよう、そしてあなたに、あなたの運命を教えよう。
46. Hannibal **femur** trāgulā graviter ictus cecidit. Liv.21.7.10
ハンニバルは、太ももを投げ槍でひどく打たれ、倒れた。
47. **Mē miserum!** 哀れな私よ。

48. **Ō miserās hominum mentēs, ō pectora caeca!** Lucr.2.14
 おお惨めな人間の精神よ、おお盲目の心よ。
49. **pectore ab imō** 心の底から
50. Ille discessit; ego **somnō** solūtus sum. Cic.Rep.6.29
 彼は去った。私は眠りから覚めた。
51. **Multōs fortūna liberat poenā, metū nēminem.** Sen.Ep.97.16
 運命は多くの者を罰から解放するが、誰一人恐怖から解放することはない。
52. **Nāte deā, quae nunc animō sententia surgit?** Verg.Aen.1.582
 女神の息子よ、今何という考えが心に浮かんだのか。
53. **Calamus gladiō** fortior. ペンは剣より強し。
54. **paucīs ante diēbus** 二、三日前に
55. **Eōdem diē castra prōmōvit et milibus** passuum sex ā Caesaris
 castrīs sub monte consēdit. Caes.B.G.1.48
 同日彼は陣営を前進させ、カエサルの陣営から 6000 パッスス離れた山麓
 に野営した。
56. **cum clāmōre** 叫び声とともに
57. **Sēra tamen tacitīs** Poena venit **pedibus.** Tib.9.4
 罰の女神は、ゆっくりと、しかし静かな足取りで訪れる。
58. **Nunc vīnō** pellite cūrās. Hor.Carm.1.7.31
 今は酒によって憂いを払いのけよ。
59. **Aspiciunt oculīs** superī mortālia **jūstīs.** Ov.Met.13.70
 神々は公平な目で人間のすることを見ている。
60. **quod ab nōn nullīs Gallīs** sollicitārentur. 彼ら是一部のガッリア人
 らによってそそのかされたからである。 Caes.B.G.2.1
61. **Ōdērunt peccāre bonī virtūtis amōre.** Hor.Ep.1.16.52
 善き人は美德への愛ゆえに罪を犯すことを嫌う。
62. **Vīgintī talentīs** ūnam ōrātiōnem Īsocratēs vendidit. Plin.7.49
 イソクラテースは一つの弁論を 20 タレントで売った。
63. **ūnō locō** 一つの場所で
64. **multīs locīs** 多くの場所で
65. **tōtā urbe** 町中で
66. **aestāte** 夏に

67. **annō tertiō** 三年目に
68. In fīnēs Vocontiōrum **diē septimō** pervēnit. Caes.B.G.1.10
彼は七日目にウォコンティイー族の領土に到着した。
69. **Vulgus amīcitiās ūtilitāte** probat. Ov.Pont.2.3.8
大衆は友情を利便によって判断する。
70. **Saepe admonitiōnibus** ūtēre, rārius castīgā.
しばしば忠告を用いよ。ごくまれに罰せよ。
71. **Homō antīquā virtūte** ac **fidē** est. Ter.Ad.442
彼は古^{いにしえ}の美德と真義を備えた人物である。
72. **Lūcius Catilīna**, nōbilī genere nātus, fuit **magnā vī** et animī et corporis, sed **ingeniō malō prāvōque**. Sal.Cat.5
ルーキウス・カティリーナは高貴な家系に生まれ、精神と肉体の大きな力を備えていたが、性格は悪くひねくれていた。
73. **Helvētiī reliquōs Gallōs virtūte** praecēdunt. Caes.B.G.1.1
ヘルウェーティイー族は他のガッリア人を勇気の点でしのいでいた。
74. **Hī omnēs linguā, institūtis, lēgibus** inter sē differunt.
Caes.B.G.1.1
これらのすべて（の部族）は、言語、制度、法律の点で、互いに異なっている。
75. **Stellae circulōs suōs orbēsque conficiunt celeritāte mīrābilī**.
Cic.Rep.6.15
星々は驚くほどの速度で自らの周回と循環を完了する。
76. **Illī domī** remanent. 彼らは家（故郷）に残る。Caes.B.G.4.1
77. **Rōmae** habitō. 私はローマに住んでいる。
78. **Quid Rōmae** faciam? 私はローマで何をなせばよいか。Juv.3.41